

初診患者の骨密度検査と骨粗鬆症診断に関する研究

研究分担者 宗圓 聡 そうえん整形外科骨粗しょう症・リウマチクリニック 院長

研究要旨：当院において1年間に初診患者で骨密度検査を実施した例は103例であったが、検診による要精検者はそのうち11例（10.6%）であり、超音波による検査結果と全身用DXAによる結果には乖離がみられた。

A. 研究目的兵庫県神戸市で骨粗鬆症、関節リウマチを主に診療している当院を初診し、骨密度検査を実施した患者について、検診による要精検を含む来院経緯を調査するとともに骨粗鬆症と診断した割合について検討した。

B. 研究方法

1年間に来院した患者のうち、初診患者で全身用DXAにより骨密度検査を実施した症例のカルテを後ろ向きに調査した。

（倫理面への配慮）

カルテは医師のみで閲覧し個人情報と事務職員に集計させた。

C. 研究結果

来院経緯は通常受診が最も多く82例、他院からの紹介受診が10例、検診による要精検例が11例であった。それらのうち、骨粗鬆症と診断した例はそれぞれ40例、4例、7例であった。検診は超音波によるもの8例、DXAによる腰椎または大腿骨近位部骨密度によるものが3例であり、超音波により若年成人平均値の80%から71%の6例のうち骨粗鬆症は3例、70%以下の2例のうち骨粗鬆症は1例であった。なお、DXAの例は全例70%以下で骨粗鬆症と診断した。

D. 考察

検診結果から受診し、骨密度検査を受ける症例は決して多くはなく、また、超音波検査結果とDXAによる骨密度測定結果は必ずしも一致しないことが少なくないことが再確認できた。検診率の向上により効率的に骨密度減少症例や骨折リスクを有する症例を検出する方策が求められる。本研究は、DXAが実施可能な整形外科・リウマチ科クリニックの一例であり、今後は骨粗鬆症が疑われる患者

の来院経緯の実態調査として複数の医療機関にわたる調査も有用と考えられる。また、2024年の骨粗鬆症財団の調査では、兵庫県の骨粗鬆症検診率は約3%と非常に低いことにも留意する必要があると考える。

E. 結論

1年間に初診患者で骨密度検査を実施した例は103例であったが、検診による要精検者はそのうち11例（10.6%）であり、超音波による検査結果と全身用DXAによる結果には乖離がみられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし